

## 拠点間連携共同研究の動き

### 1. シンポジウムの開催

「南海トラフ巨大地震のリスク評価ー地震から災害発生、復興まで一連の流れを知る」

日時： 平成 26 年 10 月 6 日 13:00～18:00, 10 月 7 日 10:00～15:00

場所： 東京大学地震研究所第 1 会議室 (地震研究所 2 号館 5 階)

主催： 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所

共催： 地震・火山噴火予知研究協議会, 自然災害研究協議会

南海トラフで発生が懸念される巨大地震を念頭に、地震の発生から災害発生後の対応まで、巨大地震やそれにとまなう災害やその対応に関するいくつかの研究を、地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点である東京大学地震研究所と自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点である京都大学防災研究所が協力して来年度から参加者募集型共同研究として開始する予定。この参加者募集型共同研究の具体的な内容や目標を、理学、工学、人文・社会科学の分野から総合的かつ学際的に議論するために研究集会を開催した。

統合的リスク評価の基本となる巨大地震の震源過程の多様性、現状の地下構造の不確かさや不均質構造中の波動伝播の複雑さ、それらがもたらす強震動への影響、地盤構造の不整形性・非線形性が与える変動、津波発生の多様性、様々な構造物に対する被害率評価の精度、減災のための新たな災害情報・リスク評価手法、災害情報の発表方法、シミュレーションによる災害評価手法等における現状と問題点を明らかにし、個々の段階の不確かさが最終的な広域的な被害想定、リスク評価に及ぼす影響や、減災のため様々な手段の問題点を、理学、工学、人文・社会科学の各分野の研究者で共有し、巨大地震のリスク評価の精度向上には何が重要かを議論した。

1. 災害情報の外部発信
2. 災害のリスク評価と意思決定
3. 構造物の被害予測モデル
4. 津波の被害予測の不確か性
5. 地盤構造と震動の関係の複雑さ
6. 強震動予測の問題点
7. 地下構造・波動伝播の複雑さ
8. 南海トラフ地震の地震像
9. コンピューター・サイエンスが拓く地震リスク評価の将来

これに基づき、平成 27 年度以降重点的に推進すべき研究課題を議論した。

### 2. 拠点間連携共同研究の募集

11 月 10 日に京大防災研で WG を開催し、来年度は参加者募集型研究としては、①統括的研究と②特定分科研究課題で研究の公募を行うことになった。総括的研究では、上記分科会で南海トラフリスク評価に必要な情報の収集を行い、情報交換を行う。特定分科研究については、来年度は上記 2. と 9. の参加者を募集することとした。

拠点間連携共同研究は、12 月 25 日～2 月 6 日まで上記参加者募集型研究と課題募集型研究の公募が行われた。今後、拠点間連携共同委員会で採択を決める。